

5 推薦入試

1 推薦入試 I (大学入試センター試験を課さない)

(1) 推薦要件, 入学者選抜方法等

実施学域・学類	人間社会学域 経済学類	
募集人員	10人	
	推薦要件	選抜方法等
	<p>以下の1から4のすべての条件を満たす者</p> <p>1. 高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む)の専門教育を主とする学科又は総合学科で専門教育に関する各教科・科目を20単位以上修得(見込みを含む)して平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、次のすべての要件を満たすもの</p> <p>(1) 高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む)における学習成績概評がA段階以上(評定平均4.3以上)に該当する者</p> <p>(2) 出身学校長が責任を持って推薦できる者</p> <p>2. 本学類への明確な志向と勉学の熱意を有する者</p> <p>3. 合格した場合、入学することを確約できる者</p> <p>4. 推薦は、1校につき2名以内とします。</p>	<p>1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。</p> <p>2. 選抜は、小論文、TOEIC (L&R)、面接の結果及び提出書類(調査書、推薦書、志願理由書)等により総合して行います。なお、TOEIC (L&R)は100点満点に換算します。</p> <p>小論文—現代の文化・社会・経済に関する和文の資料を与え、出題された論題について800字程度で論述させます。</p> <p>3. 配点</p> <p>小論文 100点</p> <p>TOEIC (L&R) 100点</p> <p>面接 100点</p>

実施学域・学類	人間社会学域 国際学類	
募集人員	15人	
	推薦要件	選抜方法等
	<p>以下の1から4のすべての条件を満たす者</p> <p>1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、出身学校長が責任を持って推薦できるもの</p> <p>(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>2. 本学類への明確な志向と勉学の熱意を有する者</p> <p>3. 合格した場合、入学することを確約できる者</p> <p>4. 推薦は、1校につき1名とします。</p>	<p>1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。</p> <p>2. 第1次選考 提出書類(調査書、推薦書、志願理由書、英語外部試験のスコア)によって総合的に判定します。</p> <p>英語外部試験—TOEFL-iBT, IELTS(アカデミック・モジュール), GTEC-CBT, TEAPのいずれか</p> <p>3. 第1次選考結果は、平成30年11月15日(木)に本人あて通知します。</p> <p>4. 第2次選考 第1次選考に合格した者に対して面接を実施します。</p> <p>なお、調査書、推薦書、志願理由書も面接の参考とします。</p> <p>5. 合否判定 第1次選考(100点満点)と第2次選考(100点満点)の結果を総合して行います。</p>

(2) 出願期間

平成30年11月1日（木）～平成30年11月6日（火）

(3) 選抜期日

人間社会学域（経済学類）： 小論文 平成30年11月24日（土）

面 接 平成30年11月25日（日）

人間社会学域（国際学類）： 第2次選考 平成30年11月24日（土）

(4) 合格者発表

平成30年12月5日（水）

(5) その他

① 推薦入試に合格しなかった場合の取扱い

推薦入試に合格しなかった者のうち、一般入試（前期日程、後期日程）で各学類が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で、所要の手続きにより一般入試（前期日程、後期日程）に出願を行ったものに限り、一般の入学志願者と同様に一般入試（前期日程、後期日程）の個別学力検査等を受験することができます。

② 原則として、入学後の転学類を認めません。

2 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

(1) 推薦要件，入学者選抜方法等

【留意事項】

1. 大学入試センター試験で、志望する学域学類等が課すすべての教科・科目等を受験しなければ、個別学力検査等を受験することはできません。
また、個別学力検査等で、志望する学域学類等が課すすべての教科・科目等を受験しなければ失格となります。
 2. 大学入試センター試験の「数学」のうち「簿記・会計」，「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む）においてこれらの科目を履修した者に限ります。
 3. 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について
 - (1) 配点に※印を付してある教科は、選択教科を表します。
 - (2) 大学入試センター試験で、指定した教科・科目数を超過して受験している場合は、指定した教科・科目数の範囲で高得点の順に教科・科目の成績を利用します。
ただし、『「地理歴史」「公民」』の受験科目を1科目と指定した学類において2科目受験している場合及び「理科」の受験科目を1科目と指定した学類において2科目受験している場合は、それぞれ受験した科目のうち第1解答科目の成績を利用します。なお、第1解答科目が指定した科目以外の場合は失格となります。
また、人間社会学域地域創造学類環境共生コースに関しては、大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を優先して利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲で高得点の上位2科目が『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。
(大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』及び「理科②」の試験時間において2科目を選択する場合、解答順に前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とします。)
 - (3) 大学入試センター試験で「数学」2科目又は「理科」2科目を課す学域学類等については、2科目の合計を表記しています。各科目の配点は各々2分の1とします。
 - (4) 大学入試センター試験の「英語」にはリスニングテストが含まれており、成績は、筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点となるように圧縮し、他の外国語と比較できるようにして利用します。
なお、大学入試センター試験の「英語」のリスニングテストが免除となる重度難聴者については、「英語」の筆記試験の成績（200点満点）を圧縮せずに利用します。
また、入学者選抜の配点にあたっては、学域学類等に示されている大学入試センター試験の「外国語」の配点に換算します。
 - (5) 大学入試センター試験の「英語」について、法学類，学校教育学類，地域創造学類，保健学類の推薦入試Ⅱにおいては、英語外部試験のスコアの提出を認め、TOEFL-iBT：45～68，IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：3.0～6.0，GTEC-CBT：820～1100，TEAP：246～304の場合は、大学入試センター試験の「英語」の得点の80%から100%の得点を、英語外部試験のスコアに応じて与えます。TOEFL-iBT：68以上，IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：6.0以上，GTEC-CBT：1100以上，TEAP：304以上の場合は、大学入試センター試験の「英語」の100%の得点を与えます。ただし、大学入試センター試験の「英語」の得点と比較して高得点の方を利用します。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。
また、医学類の推薦入試Ⅱにおいては、英語外部試験（TOEFL-iBT，IELTS（アカデミック・モジュール），GTEC-CBT，TEAP）のスコアの提出を認め、CEFRのC1相当以上のスコアを有する場合に、大学入試センター試験の「英語」の得点ではなく、総合評価に反映させます（C1相当以上のスコアとは、TOEFL-iBT：95～120，IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：7.0以上，GTEC-CBT：1400，TEAP：400に相当します）。選抜は、大学入試センター試験の成績，口頭試問による面接の結果及び提出書類等（調査書，推薦書，志願理由書，英語外部試験のスコア）を総合して行います。ただし、英語外部試験の受験は出願資格ではありません。
なお、英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。
4. 各学域学類等の内容が表示してある表の下にも「注意事項」が書いてありますので、必ず参照してください。

実施学域・学類等	人間社会学域 法学類															
募集人員	10人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [4教科5科目]		その他	面接	センター試験	100	※100(100×1)		100		125					425
					個別学力検査等									400		400
					計	100	100		100		125			400		825

【法学類(推薦入試Ⅱ)】 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等		人間社会学域 学校教育学類 [石川県教員希望枠]															
募集人員		8人															
推薦要件										選抜方法							
<p>以下の1から4のすべての条件を満たす者</p> <ol style="list-style-type: none"> 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの <ol style="list-style-type: none"> 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 出身学校長が人物・能力等、特に教育職員に就くにふさわしい資質・適性について責任を持って推薦できる者 合格した場合、入学することを確約できる者 卒業後、石川県内の学校園に教員として勤務する強い意志を持つ者 <p>※学校教育学類[石川県教員希望枠]の入学後の各専修への配属は、一般入試と同様に2年進級時に決定します。</p>										<p>選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。</p> <p>なお、本学類が課す大学入試センター試験の成績(500点満点)の得点が概ね375点(75%)以上を合格の基準とします。</p>							
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科6科目]又は[5教科7科目]		その他	面接	センター試験	100	※100(100×1)		100	100	100						500
					個別学力検査等									300		300	
					計	100	100	100	100	100			300		800		

【学校教育学類(推薦入試II)】 [石川県教員希望枠] 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等	人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 国語・社会科・英語教育専修																
募集人員	3人																
推薦要件										選抜方法							
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。 ※学校教育学類[専修枠]国語・社会科・英語教育専修の入学後の各専修への配属は、2年進級時に決定します。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。							
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B から1又は2 } から2 現社, 倫, 政経, 倫・政経から1 } (注1) 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英(注2), 独, 仏, 中, 韓から1		その他	面接	センター試験	200	※200(100×2)		100	100	200						800
					個別学力検査等									300		300	
					計	200	200	100	100	200				300		1100	
【学校教育学類(推薦入試II)】 [専修枠] 国語・社会科・英語教育専修 注意事項 (注1) 大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』は、次のいずれかの組合せとします。 『「地理歴史」から2科目』又は『「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目』 (注2) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。																	

実施学域・学類等	人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 数学・理科教育専修															
募集人員	3人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。 ※学校教育学類[専修枠]数学・理科教育専修の入学後の各専修への配属は、2年進級時に決定します。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学から2と 物理, 化学, 生物, 地学から1 又は 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]又は[5教科8科目]	その他	面接	センター試験	100	※100(100×1)		200	200	100						700
				個別学力検査等										300		300
				計	100	100	200	200	100			300		1000		

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 [専修枠] 数学・理科教育専修 注意事項

大学入試センター試験の「理科」のうち、「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等	人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 音楽教育専修															
募集人員	4人															
推薦要件										選抜方法等						
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、実技、筆記、面接の結果及び提出書類等(音楽活動実績書、調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。 実 技 新曲視唱 50点 声 楽 } から1つを選択 300点 ピアノ } 作 曲 } 筆 記 楽 典 50点 面 接 100点						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 外	国語 英(注1) [2教科2科目]		その他	実技 筆記 面接	センター試験	100					100					200
					個別学力検査等								50	100	350	500
					計	100					100		50	100	350	700

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ) [専修枠] 音楽教育専修 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等	人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 美術教育専修															
募集人員	3人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から3のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 特に美術に優れ、美術教育に熱意を有し、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者										選抜は、大学入試センター試験の成績、実技、面接(作品提出を含む)の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。 実 技——デッサン(用具として、鉛筆、消しゴム及びデッサン用具を持参してください。) 提出作品——自作による美術作品1点以上。分野、作品の大きさは自由とし、面接時に持参できるものとします。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 外 地歴 公民 数 理	国語 英(注1)、独、仏、中、韓から1 } から1 世B、日B、地理B 現社、倫、政経、倫・政経 } から1 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 } から1 物基、化基、生基、地基から2 } 又は2 又は 物理、化学、生物、地学から1 } [2教科2科目] 又は [2教科3科目]		その他	実技 面接 (作品提出を含む)	センター試験	※200	※200(200×1)			※200						400
					個別学力検査等									200	400	600
					計	※200	200			※200			200	400	1000	

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 [専修枠] 美術教育専修 注意事項

大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目が指定した科目以外の場合は、『「地理歴史」「公民」』の第2解答科目の成績は利用せず、指定した教科・科目の範囲で高得点の順に他教科の成績(「理科」の「基礎を付していない科目」については第1解答科目の成績)を利用します。ただし、「理科」については、「基礎を付した科目」2科目の合計得点又は「基礎を付していない科目」の第1解答科目の得点のうち、いずれか得点の高い成績を利用します。

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

(注2) 大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』、「数学」、「理科」から2科目となるのは、「数学」2科目又は「理科」の「基礎を付した科目」2科目の場合のみです。

実施学域・学類等		人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 保健体育専修															
募集人員		5人															
推薦要件										選抜方法							
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が、次のいずれにも該当すると認め、責任を持って推薦できる者 (1) 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者 (2) 高等学校若しくは中等教育学校において、スポーツ活動(ダンスを含む)に積極的に取り組み、優れた能力を持つ者で、かつ、入学後も活動を続ける意思のあるもの (3) 人物及び学業成績がともに優れ、本学類(保健体育専修)に対する明確な志向と勉学の熱意を持つ者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接及びスポーツ活動実績書の結果を総合して行います。 なお、調査書、推薦書、志願理由は、判定の基礎資料とします。							
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
パターンA	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理Bから1又は2 } から2 現社、倫、政経、倫・政経から1 } (注1) 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物理、化学、生物、地学から1 英(注2)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]、[5教科8科目]、 [6教科7科目]又は[6教科8科目]	その他	面接 (スポーツ 活動実績 評価を含 む)	センター試験	パターンA	200	※200(100×2)	200	100	200					900	
					センター試験	パターンB	200	※100(100×1)	200	200	200					900	
パターンB	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から1 現社、倫、政経、倫・政経 } 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2と 物理、化学、生物、地学から1 又は 物理、化学、生物、地学から2 英(注2)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]又は[5教科8科目]			個別学力検査等												
																500	500
					計	パターンA	200	200	200	100	200					500	
					パターンB	200	100	200	200	200	200			500			

【学校教育学類(推薦入試II)】 [専修枠] 保健体育専修 注意事項

- 「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
 - パターンBの「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
 - 「地理歴史」「公民」と「理科」で5科目受験している場合(つまり、「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - 「地理歴史」「公民」の第1解答科目
 - 「地理歴史」「公民」の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を利用した場合は3科目)
 - 「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合(つまり、「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目)、以下のように成績を用います。
 - 「地理歴史」「公民」の第1解答科目
 - 「理科」の第1解答科目
 - 「地理歴史」「公民」及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目
- (注1) 大学入試センター試験において、パターンAの「地理歴史」「公民」は、次のいずれかの組合せとします。
 「地理歴史」から2科目]又は「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目]
- (注2) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等		人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 家政教育専修																
募集人員		3人																
推薦要件										選抜方法								
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。								
大学入試センター試験の利用教科・科目名				個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科		科目名等		教科等	科目名等	試験の区分		国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
パターンA	国	国語 世B、日B、地理Bから1又は2 } から2 現社、倫、政経、倫・政経から1 } (注1) 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1	その他	面接	センター試験	パターンA		200	※200(100×2)		200	100	200					900
	理					パターンB		200	※100(100×1)		200	200	200					
パターンB	外	物理、化学、生物、地学から1 英(注2)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]、[5教科8科目]、 [6教科7科目]又は[6教科8科目]			個別学力検査等											300		300
	国				国語 世B、日B、地理B } から1 現社、倫、政経、倫・政経 } 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2と 物理、化学、生物、地学から1 又は 物理、化学、生物、地学から2 英(注2)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]又は[5教科8科目]	計	パターンA		200	200		200	100	200				
外	パターンB		200	100			200	200	200					300				

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 [専修枠] 家政教育専修 注意事項

- 「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
 - パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
 - 『「地理歴史」「公民」と「理科」で5科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民」』の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を利用した場合は3科目)
 - 『「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目)、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
 - 『「理科」』の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民」』及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目
- (注1) 大学入試センター試験において、パターンAの『「地理歴史」「公民」』は、次のいずれかの組合せとします。
『「地理歴史」から2科目』又は『「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目』
- (注2) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等	人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 特別支援教育専修															
募集人員	5人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当し、特別支援教育に熱意を有する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科6科目] 又は [5教科7科目]		その他	面接	センター試験	100	※100(100×1)		100	100	100					500
					個別学力検査等									300		300
					計	100	100		100	100	100			300		800

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 [専修枠] 特別支援教育専修 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等	人間社会学域 地域創造学類 福祉マネジメントコース																
募集人員	5人																
推薦要件										選抜方法							
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 人物及び学業成績が優秀で、福祉マネジメントコースでの勉学に強い意欲を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。							
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
国 地歴 公民 外	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 現社, 倫, 政経, 倫・政経 英(注1) [3教科3科目]		その他	面接	センター試験	200	※100(100×1)					200					500
					個別学力検査等								500		500		
					計	200	100					200		500		1000	

【地域創造学類(推薦入試Ⅱ) 福祉マネジメントコース 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等	人間社会学域 地域創造学類 環境共生コース															
募集人員	5人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 人物及び学業成績が優秀で、環境共生コースでの勉学に強い意欲を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1(注2) 現社, 倫, 政経, 倫・政経 から1(注2) 数I・数A, 数II・数B, 簿, 情報 から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英(注3), 独, 仏, 中, 韓から1 [2教科2科目]又は[2教科3科目]		その他	面接	センター試験	※200(100×2)									200	
					個別学力検査等									400		400
					計	200							400		600	

【地域創造学類(推薦入試Ⅱ) 環境共生コース 注意事項

- (注1) 大学入試センター試験において、{「国語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」、「理科」、「外国語」}から3科目となるのは、「理科」の「基礎を付した科目」2科目と他教科の1科目の場合のみです。
- (注2) 大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を優先して利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲で高得点の上位2科目が『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。
- (注3) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等		人間社会学域 地域創造学類 地域プランニングコース														
募集人員		5人														
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、人物及び学業成績が優秀で、地域プランニングコースでの勉学に強い意欲を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。 なお、調査書、推薦書は面接の際に参考とします。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
パターンA	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物理、化学、生物、地学から1 英(注1)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]、[5教科8科目]、 [6教科7科目]又は[6教科8科目]	その他	面接	センター試験	パターンA	200	※200(100×2)	200	100	200					900
						パターンB	200	※100(100×1)	200	200	200				900	
パターンB	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2と 物理、化学、生物、地学から1 又は 物理、化学、生物、地学から2 英(注1)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]又は[5教科8科目]			個別学力検査等											
					パターンA	200	200	200	100	200				400	400	
					計	パターンB	200	100	200	200	200			400		1300

【地域創造学類(推薦入試II)】 地域プランニングコース 注意事項

- ① 「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
- ② パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
- ③ 「『地理歴史』『公民』と『理科』で5科目受験している場合(つまり、『地理歴史』『公民』2科目+『理科』の「基礎を付した科目」2科目+『理科』の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - ① 「『地理歴史』『公民』」の第1解答科目
 - ② 「『地理歴史』『公民』」の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を利用した場合は3科目)
- ④ 「『地理歴史』『公民』と『理科』で4科目受験している場合(つまり、『地理歴史』『公民』2科目+『理科』の「基礎を付していない科目」2科目)、以下のように成績を用います。
 - ① 「『地理歴史』『公民』」の第1解答科目
 - ② 「理科」の第1解答科目
 - ③ 「『地理歴史』『公民』及び『理科』」の第2解答科目のうち得点の高い科目

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等	医薬保健学域 医学類 [一般枠]															
募集人員	15人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から3のすべての条件を満たす者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)か(2)のいずれかに該当する者 (1)高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がA段階(評定平均4.3以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者										1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)を総合して行います。 ただし、志願者数が募集人員に対して2倍程度を超えた場合には、 <u>大学入試センター試験の配点による成績の総得点により第1次選考を行うことがあります。</u> その場合は、第1次選考合格者についてのみ第2次選考(口頭試問による面接)を実施します。 なお、本学類が課す大学入試センター試験(800点満点)の得点が概ね680点(85%)以上を合格の基準とします。 2. 第1次選考結果は、 平成31年2月7日(木) に本人あて通知します。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物理と化学 英 [5教科7科目]		その他	面接 (口頭試問)	センター試験	100	※100(100×1)		200	200	200					800
					個別学力検査等									200		200
					計	100	100		200	200	200			200		1000

【医学類(推薦入試Ⅱ)】 [一般枠] 注意事項

- (1) 推薦要件の「A」とは、高等学校又は中等教育学校における学習成績概評がA段階(全体の評定平均値 5.0~4.3)に属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀な者です。この場合、調査書にAと標示し、「備考」の欄にその理由を明示してください。
- (2) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験(TOEFL-iBT, IELTS(アカデミック・モジュール), GTEC-CBT, TEAP)のスコアの提出を認め、CEFRのC1相当以上のスコアを有する場合に、大学入試センター試験の「英語」の得点ではなく、総合評価に反映させます(C1相当以上のスコアとは、TOEFL-iBT: 95~120, IELTS(アカデミック・モジュール)バンド: 7.0以上, GTEC-CBT: 1400, TEAP: 400に相当します)。
選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書、英語外部試験のスコア)を総合して行います。ただし、英語外部試験の受験は出願資格ではありません。

実施学域・学類等	医薬保健学域 医学類 [特別枠]															
募集人員	石川県枠10人 富山県枠2人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から3のすべての条件を満たす者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)か(2)のいずれかに該当する者 (1)高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評が④段階(評定平均4.3以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者										1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)を総合して行います。 ただし、志願者数が募集人員に対して3倍程度を超えた場合には、大学入試センター試験の配点による成績の総得点により第1次選考を行うことがあります。 その場合は、第1次選考合格者についてのみ第2次選考(口頭試問による面接)を実施します。 なお、本学類が課す大学入試センター試験(800点満点)の得点が概ね680点(85%)以上を合格の基準とします。 2. 第1次選考結果は、平成31年2月7日(木)に本人あて通知します。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B }から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物理と化学 英 [5教科7科目]	その他	面接 (口頭試問)	センター試験	100	※100(100×1)		200	200	200						800
				個別学力検査等									200		200	
				計	100	100	200	200	200		200		1000			

【医学類(推薦入試Ⅱ)】 [特別枠(石川県枠・富山県枠)] 注意事項

- (1) 推薦要件の「④」とは、高等学校又は中等教育学校における学習成績概評がA段階(全体の評定平均値5.0~4.3)に属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀な者です。この場合、調査書に④と標示し、「備考」の欄にその理由を明示してください。
- (2) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験(TOEFL-iBT, IELTS(アカデミック・モジュール), GTEC-CBT, TEAP)のスコアの提出を認め、CEFRのC1相当以上のスコアを有する場合に、大学入試センター試験の「英語」の得点ではなく、総合評価に反映させます(C1相当以上のスコアとは、TOEFL-iBT:95~120, IELTS(アカデミック・モジュール)バンド:7.0以上, GTEC-CBT:1400, TEAP:400に相当します)。
選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書、英語外部試験のスコア)を総合して行います。ただし、英語外部試験の受験は出願資格ではありません。

※石川県枠について

1. 将来、石川県の地域医療をリードする指導的人材の育成を目的としています。
2. 出身高校の所在地に関わらず、石川県の地域医療に貢献する強い意志を持ち、石川県知事からの推薦があり、入学後は、石川県の修学資金の貸与を受ける者を対象とします。
また、卒業後は、指定された臨床研修病院で臨床研修を行った後、石川県知事が貸与生ごとに指定する石川県内の医療機関において、7年間診療に従事することになります。

※富山県枠について

1. 将来、富山県の地域医療をリードする指導的人材の育成を目的としています。
2. 出身高校の所在地に関わらず、富山県の地域医療に貢献する強い意志を持ち、富山県知事からの推薦があり、入学後は、富山県の修学資金の貸与を受ける者を対象とします。
また、卒業後は、指定された臨床研修病院で臨床研修を行った後、富山県知事が貸与生ごとに指定する富山県内の医療機関において、地域医療に必要な診療科(小児科、小児外科、産科、麻酔科、救急科、総合診療科)で9年間診療に従事することになります。

特別枠(石川県枠、富山県枠)で不合格であっても、予め、一般枠を第2志望とした者については、一般枠の選考対象とします。

なお、石川県枠と富山県枠の併願は認められません。

実施学域・学類等		医薬保健学域 保健学類 看護学専攻													
募集人員		15人													
推薦要件										選抜方法					
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 学業成績が優秀、人物に優れ、看護学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。					
大学入試センター試験の利用教科・科目名				個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									
教科	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物理、化学、生物、地学から1 英(注1)、独、仏、中、韓から1 [5教科6科目]	その他	面接 (調査書、 推薦書、志 願理由書 等を含む)	センター試験	200	※100(100×1)		200	100	200					800
				個別学力検査等								200		200	
				計	200	100		200	100	200		200		1000	

【保健学類(推薦入試Ⅱ)】 看護学専攻 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等	医薬保健学域 保健学類 放射線技術科学専攻															
募集人員	5人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 学業成績が優秀、人物に優れ、放射線技術科学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物理、化学、生物、地学から2 英(注1)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]		その他	面接 (調査書、推薦書、志願理由書等を含む)	センター試験	100	※100(100×1)		200	400	200					1000
					個別学力検査等									400		400
					計	100	100		200	400	200			400		1400

【保健学類(推薦入試Ⅱ)】放射線技術科学専攻 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等	医薬保健学域 保健学類 検査技術科学専攻															
募集人員	6人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 学業成績が優秀、人物に優れ、検査技術科学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]		その他	面接 (調査書, 推薦書, 志願理由書等を含む)	センター試験	200	※100(100×1)		200	200	200					900
					個別学力検査等									200		200
					計	200	100		200	200	200			200		1100

【保健学類(推薦入試Ⅱ)】 検査技術科学専攻 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等	医薬保健学域 保健学類 理学療法学専攻															
募集人員	4人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 学業成績が優秀、人物に優れ、理学療法学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数Ⅱと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物理、化学、生物、地学から2 英(注1)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]		その他	面接 (調査書、推薦書、志願理由書等を含む)	センター試験	200	※100(100×1)		200	200	200					900
					個別学力検査等									600		600
					計	200	100		200	200	200			600		1500

【保健学類(推薦入試Ⅱ)】 理学療法学専攻 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等	医薬保健学域 保健学類 作業療法学専攻															
募集人員	5人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成31年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年4月から平成31年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 学業成績が優秀、人物に優れ、作業療法学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から1 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科6科目]		その他	面接 (調査書, 推薦書, 志 願理由書 等を含む)	センター試験	200	※100(100×1)		200	100	200					800
					個別学力検査等									400		400
					計	200	100		200	100	200			400		1200

【保健学類(推薦入試Ⅱ) 作業療法学専攻 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、29ページの【留意事項】を参照してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

(2) 出願期間

平成30年12月14日（金）～平成30年12月20日（木）

(3) 選抜期日

人間社会学域（法学類，学校教育学類，地域創造学類），医薬保健学域（保健学類）：平成31年2月2日（土）

医薬保健学域（医学類）：第2次選考 平成31年2月11日（月・祝）

(4) 合格者発表

人間社会学域（法学類，学校教育学類，地域創造学類），医薬保健学域（保健学類）：平成31年2月12日（火）

医薬保健学域（医学類）：第2次選考 平成31年2月13日（水）

(5) その他

① 推薦入試に合格しなかった場合の取扱い

推薦入試に合格しなかった者のうち，一般入試（前期日程，後期日程）で各学類が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で，所要の手続により一般入試（前期日程，後期日程）に出願を行ったもの限り，一般の入学志願者と同様に一般入試（前期日程，後期日程）の個別学力検査等を受験することができます。

② 原則として，入学後の転学類・転専攻等を認めません。

6

アドミッション・オフィス入試 (AO 入試)

1 出願資格, 選抜方法等

実施学域・学 類	医薬保健学域 薬学類 創薬科学類
募集人員	薬学類(6年制) 3名, 創薬科学類(4年制) 6名 (それぞれ分けて募集します。)
出 願 資 格	次の1から4のいずれかに該当し, 合格した場合は入学することを確約できる者で, 平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成31年3月までに卒業見込みの者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月までに修了見込みの者 3. 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第150条第1号から第5号の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者 4. 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第150条第7号の規定により, 本学において, 個別の入学資格審査により, 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で, 平成31年3月31日までに18歳に達するもの
出 願 要 件	次のすべてを満たす者 1. 学業成績が優秀で, 人物的に優れ, 大学入試センター試験の教科・科目の配点による成績の総得点(1000点満点)が750点(75%)以上の者 2. 本学大学院(薬学専攻博士課程又は創薬科学専攻博士後期課程)までの一貫した教育を受け, 博士の学位を取得し, 薬学教育・研究者や創薬研究者を志す者 大学入試センター試験で課す教科・科目名 国 (国語) 100点 地歴 (世B, 日B, 地理B) } から1 公民 (倫・政経) } 100点 数 (数Ⅰ・数A)と (数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1) 300点 理 (物理と化学) 200点 外 (英(注), 独, 仏, 中, 韓から1) 300点 合計 1000点 [5教科7科目] (注) 大学入試センター試験の「英語」については, 英語外部試験のスコアの提出を認め, TOEFL-iBT: 45~68, IELTS(アカデミック・モジュール)バンド: 3.0~6.0, GTEC-CBT: 820~1100, TEAP: 246~304の場合は, 大学入試センター試験の「英語」の得点の80%から100%の得点を, 英語外部試験のスコアに応じて与えます。TOEFL-iBT: 68 以上, IELTS(アカデミック・モジュール)バンド: 6.0以上, GTEC-CBT: 1100以上, TEAP: 304以上の場合は, 大学入試センター試験の「英語」の100%の得点を与えます。ただし, 大学入試センター試験の「英語」の得点と比較して高得点の方を利用します。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても, 大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。
選抜方法等	1. 選抜は, 第1次選考及び第2次選考により行います。 大学入試センター試験で薬学類, 創薬科学類が課す教科・科目のすべてを受験しなければ, 失格となります。 2. 第1次選考 提出された調査書, その他の書類(志願理由書, 活動報告書, 入学意志及び進学意志確認書等), 大学入試センター試験の得点により, 出願資格及び出願要件を満たしているか評価します。 なお, 志願者数が募集人員を大幅に上回る場合には, 大学入試センター試験の得点に加え, 提出された調査書, その他の書類(志願理由書, 活動報告書, 入学意志及び進学意志確認書等)の内容により募集人員の2倍程度になるよう選考します。 3. 第1次選考結果は, 平成31年2月7日(木)に本人あて通知します。 4. 第2次選考 第1次選考の合格者に対し, 小論文と面接による試験を実施し, 将来への高い目的意識とそこに向かう意欲・資質, 本質への探究心, 本学における学修意欲等について多方面から評価します。 ※配点 小論文 50点 面接(グループ討論・個人面接) 100点

2 出願期間

平成31年1月21日（月）～平成31年1月25日（金）

3 選抜期日

第2次選考：平成31年2月11日（月・祝）

4 合格者発表

平成31年2月13日（水）

5 その他

(1) AO入試に合格しなかった場合の取扱い

AO入試に合格しなかった者のうち、一般入試（前期日程，後期日程）で各学類が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で，所要の手続により一般入試（前期日程，後期日程）に出願を行った者に限り，一般の入学志願者と同様に一般入試（前期日程，後期日程）の個別学力検査等を受験することができます。

(2) 原則として，入学後の転学類を認めません。

(3) 大学入試センター試験について

① 大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』の受験科目について，2科目受験している場合は，受験した科目のうち，第1解答科目の成績を利用します。なお，第1解答科目が指定した科目以外の場合は失格となります。

（『「地理歴史」「公民」』の試験時間において2科目を選択する場合，解答順に前半に受験した科目を第1解答科目，後半に受験した科目を第2解答科目とします。）

② 大学入試センター試験の「数学」のうち，「簿記・会計」，「情報関係基礎」を選択できる者は，高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。

③ 大学入試センター試験の「数学」2科目及び「理科」2科目については，2科目の合計を表記しています。各科目の配点は各々2分の1とします。

④ 大学入試センター試験の「英語」にはリスニングテストが含まれており，成績は，筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点となるように圧縮し，他の外国語と比較できるようにして利用します。なお，リスニングテストが免除となる重度難聴者については，「英語」の筆記試験の成績（200点満点）を圧縮せずに利用します。

また，入学者選抜の配点にあたっては，大学入試センター試験の外国語の配点（300点）に換算します。

7 帰国子女入試

1 出願資格

日本の国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務等の事情により保護者とともに外国に在留し、外国で学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当するもの

- (1) 外国の教育制度に基づく教育機関において12年の課程のうち、日本の高等学校に相当する学校に最終学年を含め2学年以上継続して在学し、平成29年（2017年）4月から平成31年（2019年）3月までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者
- (2) 外国の教育制度に基づく教育機関において2学年以上継続して学校教育を受け、引き続き、日本の高等学校若しくは中等教育学校後期課程の第3学年に編入学した者で平成31年（2019年）3月までに卒業見込みのもの
- (3) 外国において、日本の高等学校に対応する学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における11年以上の課程を修了したとされるものであることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを、最終学年を含め2学年以上継続して在学し、平成29年（2017年）4月から平成31年（2019年）3月までに修了した者及び修了見込みの者
- (4) スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を平成29年（2017年）4月以降に授与された者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの
- (5) ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成29年（2017年）4月以降に取得した者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの
- (6) フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成29年（2017年）4月以降に取得した者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの
- (7) グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル（GCE Aレベル）資格を平成29年（2017年）4月以降に取得した者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの
- (8) 外国において、国際的な評価団体（ウェスタン・アソシエーション・オブ・スクールズ・アンド・カレッジズ、アソシエーション・オブ・クリスチャン・スクールズ・インターナショナル又はカウンセル・オブ・インターナショナル・スクールズ）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を、最終学年を含めて2学年以上継続して在学し、平成29年（2017年）4月から平成31年（2019年）3月までに修了した者及び修了見込みの者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの

- (注) 1. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程における教育の期間は、外国の教育制度に基づく教育機関における教育の期間には含みません。
2. 保護者の帰国に同伴せず、保護者が帰国した後、本人が帰国するまでの滞在期間が1年以上経過した者は出願できません。
3. (7) については、GCE Aレベル試験において本学が指定する科目数や評価を満たしていることが必要です。出願に必要な科目数及び評価については下表のとおりです。

○ 本学の出願に必要なGCE Aレベル資格の科目数及び評価について

学域・学類		必要な科目数及び評価
人間社会学域	人文学類	Aレベル試験を3科目以上合格(E評価以上)していること。
	法学類	
	経済学類	
	地域創造学類	Aレベル試験を3科目以上合格(E評価以上)していること。 ただし、「生物」、「経済」、「地理」、「政治」、「歴史」、「数学」のうち2科目を含むものとする。
	国際学類	Aレベル試験を3科目以上合格(E評価以上)していること。

学域・学類		必要な科目数及び評価
理工学域	数物科学類	Aレベル試験を3科目以上合格(E評価以上)していること。
	物質化学類	
	機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類	
	地球社会基盤学類	
	生命理工学類	
医薬保健学域	医学類	Aレベル試験を3科目以上合格(E評価以上)していること。 ただし、「数学」1科目と「物理」、「化学」、「生物」のうち2科目の計3科目を含むものとする。
	薬学類・創薬科学類	Aレベル試験を3科目以上合格(E評価以上)していること。 ただし、「数学」、「物理」、「化学」の3科目を含むものとする。
	保健学類	Aレベル試験を3科目以上合格(E評価以上)していること。 ただし、「数学」1科目と「物理」、「化学」、「生物」のうち2科目の計3科目を含むものとする。

2 入学者選抜方法等

学域・学類等	募集人員	選抜方法等
人間社会学域	人文学類	若干名 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 国(国語総合) 外(英(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ), 独, 仏, 中から1)
	法学類	若干名 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、成績証明書(調査書)、推薦書、志願理由書及び面接の結果を総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 国(国語総合)のうちの現代文
	経済学類	若干名 1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、成績証明書(調査書)、推薦書、志願理由書及び面接の結果を総合して行います。 小論文:現代の文化・社会・経済に関する和文の資料を与え、出題された論題について800字程度で論述させます。
	地域創造学類	若干名 1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 小論文:地域創造に関することを論述させます。
	国際学類	若干名 1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 第1次選考 成績証明書(調査書)、推薦書、志願理由書の審査、英語外部試験の成績 英語外部試験:TOEFL-iBT, IELTS(アカデミック・モジュール), GTEC-CBT, TEAPのいずれか 3. 第1次選考結果は、平成30年11月15日(木)に本人あて通知します。 4. 第2次選考 第1次選考に合格した者に対して面接を実施します。 なお、調査書、推薦書、志願理由書も面接の参考とします。 5. 合否判定 第1次選考(100点満点)と第2次選考(100点満点)の結果を総合して行います。

学域・学類等		募集人員	選抜方法等	
理工学域	数物科学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 	
	物質化学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(化基・化学) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ) 	
	機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機械工学類・フロンティア工学類・電子情報通信学類の選抜は3学類一括で実施します。各学類への移行は2年進級時からとなります。 2. 大学入試センター試験を免除します。 3. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 4. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ) 	
	地球社会基盤学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理, 化基・化学, 生基・生物, 地基・地学から1) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ) 	
	生命理工学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ) 	
医薬保健学域	医学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理)と(化基・化学) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ) 	
	薬学類・創薬科学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理)と(化基・化学) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ) 4. その他 薬学類(6年制)、創薬科学類(4年制)の選抜は一括で実施します。各学類への配属は3年次後期からとなります。 	
	保健学類	看護学専攻	各専攻 若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 理(物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)
		放射線技術科学専攻		
		検査技術科学専攻		
理学療法学専攻				
	作業療法学専攻			

3 出願期間

人間社会学域（経済学類，国際学類）：平成30年10月22日（月）～平成30年10月26日（金）

人間社会学域（人文学類，法学類，地域創造学類），理工学域，医薬保健学域：平成31年1月22日（火）～平成31年1月25日（金）

4 選抜期日

人間社会学域（経済学類）：小論文 平成30年11月24日（土）

面接 平成30年11月25日（日）

人間社会学域（国際学類）：第2次選考 平成30年11月24日（土）

人間社会学域（人文学類，法学類，地域創造学類），理工学域，医薬保健学域（保健学類）：平成31年2月25日（月）

医薬保健学域（医学類，薬学類・創薬科学類）：平成31年2月25日（月）～平成31年2月26日（火）

5 合格者発表

人間社会学域（経済学類，国際学類）：平成30年12月5日（水）

人間社会学域（人文学類，法学類，地域創造学類），理工学域，医薬保健学域：平成31年3月7日（木）

8 国際バカロレア入試

1 募集人員

各学域学類とも若干名（医薬保健学域医学類については実施しない）

2 出願資格

次の（1）～（3）のいずれにも該当する者

（1）スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を平成31年（2019年）3月までに授与された者及び授与見込みの者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの

（2）国際バカロレア資格の取得において、次の①及び②に該当する者又は平成31年（2019年）3月までに該当する見込みの者

① 言語Aを日本語により履修し、成績評価が4以上の者

ただし、人文学類、法学類、経済学類、地域創造学類、国際学類においては、言語B（HL）を日本語により履修し、成績評価が4以上の者を含みます。

② 本学の指定する次表の科目を履修し、必要な成績評価を修めた者

学域・学类等		指定する科目等	
人間社会学域	人文学類	ディプロマスコア35以上	
	法学類	グループ3から1科目（HL成績評価4以上）	
	経済学類	指定なし	
	学校教育学類	グループ2～6から1科目（HL成績評価4以上）	
	地域創造学類	ディプロマスコア35以上かつグループ3～5から1科目（HL成績評価4以上）	
	国際学類	指定なし	
理工学域	数物科学類	数学（HL成績評価4以上）及び物理（HL成績評価4以上） 又は 数学（HL成績評価4以上）及び化学（HL成績評価4以上）	
	物質化学類	数学（HL成績評価4以上） 化学（HL成績評価4以上）	
	機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類	数学（HL成績評価4以上） 物理（HL成績評価4以上）	
	地球社会基盤学類	数学（HL成績評価4以上）及び物理（HL成績評価4以上） 又は 数学（HL成績評価4以上）及び化学（HL成績評価4以上）	
	生命理工学類	数学（HL成績評価4以上） 物理、化学、生物から1科目（HL成績評価4以上）	
医薬保健学域	薬学類・創薬科学類	数学（HL成績評価4以上） 物理（HL成績評価4以上） 化学（HL成績評価4以上）	
	保健学類	看護学専攻	物理、化学、生物から1科目（HL成績評価4以上）
		放射線技術科学専攻	
		検査技術科学専攻	
		理学療法学専攻 作業療法学専攻	

※HLはHIGHER LEVELを表す。

（3）本学での勉学を強く希望し、合格した場合には入学することを確約できる者

3 入学者選抜方法等

(1) 人文学類，法学類，学校教育学類，地域創造学類，国際学類，理工学域のすべての学類及び薬学類・創薬科学類，保健学類

- ① 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。
- ② 選抜は，提出書類等及び面接・口述試験の結果により総合して行います。
- ③ 機械工学類，フロンティア工学類，電子情報通信学類の選抜は，3学類一括で実施します。各学類への移行は2年進級時からとなります。
- ④ 薬学類（6年制），創薬科学類（4年制）の選抜は一括で実施します。各学類への配属は3年次後期からとなります。

(2) 経済学類

- ① 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。
- ② 選抜は，提出書類等，小論文及び面接の結果により総合して行います。

4 出願期間

平成30年10月22日（月）～平成30年10月26日（金）

5 選抜期日

人間社会学域（人文学類，法学類，学校教育学類，地域創造学類，国際学類）：平成30年11月24日（土）

人間社会学域（経済学類）：平成30年11月24日（土）～平成30年11月25日（日）

理工学域：平成30年11月24日（土）

医薬保健学域（薬学類・創薬科学類，保健学類）：平成30年11月24日（土）

6 合格者発表

平成30年12月5日（水）

9 私費外国人留学生入試

1 募集人員

各学域学類とも若干名

2 出願資格

日本の国籍を有しない者（日本国の永住許可を得ている者を除く）で、次の（1）及び（2）に該当するもの

（1）次のいずれかに該当する者

- ① 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び平成31年（2019年）3月までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- ② スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を授与された者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの
- ③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を取得した者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの
- ④ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を取得した者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの
- ⑤ グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル（GCE Aレベル）資格を取得した者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの
- ⑥ 外国において、国際的な評価団体（ウェスタン・アソシエーション・オブ・スクールズ・アンド・カレッジズ、アソシエーション・オブ・クリスチャン・スクールズ・インターナショナル又はカウンセル・オブ・インターナショナル・スクールズ）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を平成31年（2019年）3月までに修了した者及び修了者見込みの者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの

（2）独立行政法人日本学生支援機構が実施する平成29年度（2017年度）又は平成30年度（2018年度）日本留学試験を受験した者（薬学類及び創薬科学類を除く）

注意事項

入学後は「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定める在留資格（原則として「留学」）の取得が必要です。「留学」以外の日本に長期で滞在できる在留資格でも入学・在学することはできますが、その場合、「留学」の在留資格を対象にした各種助成制度を利用できません。また、短期滞在ビザで大学に在籍し続けることはできません。

3 出願条件

- （1）保健学類検査技術科学専攻については、日本留学試験において、指定された科目を受験し、その合計点の得点率が60%を超えていること、並びに、TOEFLにおいて、得点率が60%を超えていること。
- （2）上記「2 出願資格（1）⑤」については、GCE Aレベル試験において本学が指定する科目数や評価を満たしていることが必要です。出願に必要な科目数及び評価については下表のとおりです。

○ 本学の出願に必要なGCE Aレベル資格の科目数及び評価について

学域・学類		必要な科目数及び評価
人間 社会 学域	人文学類	Aレベル試験を3科目以上合格（E評価以上）していること。
	法学類	
	経済学類	
	学校教育学類	

学域・学類		必要な科目数及び評価
人間社会学域	地域創造学類	Aレベル試験を3科目以上合格（E評価以上）していること。 ただし、「生物」、「経済」、「地理」、「政治」、「歴史」、「数学」のうち2科目を含むものとする。
	国際学類	Aレベル試験を3科目以上合格（E評価以上）していること。
理工学域	数物科学類	Aレベル試験を3科目以上合格（E評価以上）していること。
	物質化学類	
	機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類	
	地球社会基盤学類	
	生命理工学類	
医薬保健学域	医学類	Aレベル試験を3科目以上合格（E評価以上）していること。 ただし、「数学」1科目と「物理」、「化学」、「生物」のうち2科目の計3科目を含むものとする。
	薬学類・創薬科学類	Aレベル試験を3科目以上合格（E評価以上）していること。 ただし、「数学」、「物理」、「化学」の3科目を含むものとする。
	保健学類	Aレベル試験を3科目以上合格（E評価以上）していること。 ただし、「数学」1科目と「物理」、「化学」、「生物」のうち2科目の計3科目を含むものとする。

4 入学者選抜方法等

大学入試センター試験を免除し、平成29年度（2017年度）又は平成30年度（2018年度）日本留学試験（薬学類及び創薬科学類を除く）、学力検査等の成績及び書類審査の結果を総合して日本人とは異なる基準により選抜します。

学力検査等の科目は、60ページのとおりです。

志望する学域学類等が課す日本留学試験及び個別学力検査等をすべて受験しなければ失格となります。

5 出願期間

人間社会学域、医薬保健学域：平成31年1月22日（火）～平成31年1月25日（金）

理工学域：平成30年10月22日（月）～平成30年10月26日（金）

6 選抜期日

人間社会学域：平成31年2月25日（月）

理工学域：平成30年11月24日（土）

医薬保健学域（医学類、薬学類・創薬科学類）：平成31年2月25日（月）～平成31年2月26日（火）

医薬保健学域（保健学類）：平成31年2月25日（月）

7 合格者発表

人間社会学域、医薬保健学域：平成31年3月7日（木）

理工学域：平成30年12月5日（水）

学域・学類等		日本留学試験の利用する教科・科目等						英語能力	学力検査等					
		日本語	総合科目	数学	理 科					出題言語	利用試験 (注2参照)			
					物理	化学	生物							
人間社会学域	人文学類							日本語 又は 英語	TOEFL	国語(国総)の内の現代文 面接				
	法学類	◎	◎	◎ コース1又は コース2より 選択				日本語		小論文と面接				
	経済学類													
	学校教育学類	パターンA	◎	◎	◎ コース1又は コース2より 選択				日本語 又は 英語	6月 又は 11月	学力検査等で 外国語を課す。 (コ英II・コ英 III・英表I・ 英表II)	国語(国総) 数学(数I・数II・数A・数B) 理科(物基・物理, 化基・化学, 生基・生物, 地基・地学 から1) 外国語(コ英II・コ英III・英表I・ 英表II) 面接		
		パターンB	◎		◎ コース1又は コース2より 選択	○	○	○					2科目選択	
	地域創造学類								日本語	TOEFL	小論文と面接			
国際学類	◎	◎	◎ コース1又は コース2より 選択											
理工学域	数物科学類	◎		◎ コース2	◎			日本語 又は 英語	6月 又は 11月	TOEFL	面接			
	物質化学類	◎		◎ コース2	◎	◎								
	機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類	◎		◎ コース2	◎	◎								
	地球社会基盤学類	◎		◎ コース2	◎	◎								
	生命理工学類	◎		◎ コース2	○	○	○					2科目選択		
医薬保健学域	医学類	◎		◎ コース2	○	○	○	日本語	6月 又は 11月	TOEFL	数学(数I・数II・数III・数A・数B) 理科(物基・物理と化基・化学) 面接			
	薬学類 創薬科学類			課さない							数学(数I・数II・数III・数A・数B) 理科(物基・物理と化基・化学) 外国語(コ英II・コ英III・英表I・ 英表II) 面接			
	保健学類	看護学専攻							日本語		6月 又は 11月	理科(物基・物理, 化基・化学, 生基・ 生物から1) 外国語(コ英II・コ英III・英表I・英 表II) 面接		
		放射線技術科学専攻	◎		◎ コース2	○	○	○					2科目選択	数学(数I・数II・数III・数A・数B) 理科(物基・物理, 化基・化学, 生基・ 生物から1) 面接
		検査技術科学専攻												数学(数I・数II・数III・数A・数B) 理科(物基・物理, 化基・化学, 生基・ 生物から1) 面接
		理学療法学専攻												面接
作業療法学専攻										面接				

- (注) 1. ◎は必須科目, ○は選択科目を示します。
2. 日本留学試験は, 平成29年度(2017年度)又は平成30年度(2018年度)の6月及び11月のいずれか1回の成績を利用します。
(ただし, 理工学域においては, 出願期間の関係上, 平成30年度(2018年度)11月の成績は利用できません。)
3. 学校教育学類における「日本留学試験の利用する教科・科目等」は, パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
4. 機械工学類, フロンティア工学類, 電子情報通信学類の選抜は3学類一括で実施します。各学類への移行は2年進級時からとなります。
5. 薬学類(6年制)と創薬科学類(4年制)の選抜は一括で実施します。各学類への配属は3年次後期からとなります。